



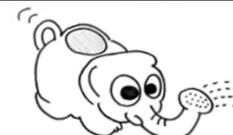
まっくと!!

東京集会実行委員会ニュース No.3 平成 27 年12月発行



アオザリ成長記録 No2

葉が一枚落ちました。アオザリも冬支度...
いよいよ冬本番ですね!



東京保問研事務局長
佐々木さんの自宅にて撮影



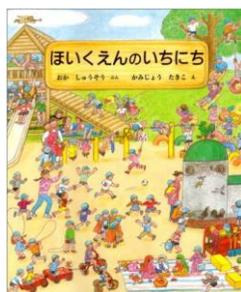
記念講演

いま絵本にこめる 私たちの思いねがい

リレートーク × 原画展

集会初日の目玉となる、記念講演をどのような場にしたいか...考えていた折、縁あって子どもの本・九条の会の7周年の集いに参加しました。その会で語られていた子どもたちへの思いに共感すると共に、作家さんの原画から伝わる平和に対する強いメッセージを感じ、この思いをもっと広めたいと思いました。今回の企画をたくさんの人たちと考え合える場にしたいと検討を重ね、東京集会でリレートーク&原画展を実現できる事となりました。リレートークでは子どもの本・9条の会代表の丘修三さん、内田麟太郎さん、浜田桂子さん、和歌山静子さんによる「いま、絵本にこめる私たちの思い、ねがい」と題し、それぞれの作家さんが絵本に込めた思い、裏話などを語り合います。また、原画展『戦争なんか大きらい!』も同時開催。作家さん63名による、戦争反対・改憲反対をモットーに、子供も大人も安心して生きられる世の中を、守り創りたいという熱い思いが込められている原画たちも一緒にご覧下さい。

企画担当：三瓶



丘 修三 (おか しゅうぞう)

1941年、熊本県に生まれる。東京学芸大学および東京教育大学で、障害児保育を学ぶ。養護学校教諭を経て、作家活動に入る。『ぼくのお姉さん』で日本児童文学者協会新人賞・新見南吉児童文学賞・坪田譲治文学賞受賞。『少年の日々』(ともに偕成社)で小学館文学賞受賞。『口で歩く』(小峰書店)で産経児童出版文化賞(ニッポン放送相)受賞。作品に『海をかえて!』(童心社)、『ウソがいっぱい』(くもん出版)、『けやきの森の物語』(小峰書店)、『福の神になった少年』『ほいくえんのいちにち』『ようちえんのいちにち』『いちねんせいのいちにち』ほか、多数。子どもの本・九条の会代表。

内田 麟太郎 (うちだ りんたろう)

1941年、福岡県大牟田市生まれ。個性的な文体で独自の世界を展開。『さかさまライオン』(童心社)で絵本にっぽん大賞、『うそつきのつき』(文芸堂)で小学館児童出版文化賞、『がたごとがたごと』(童心社)で日本絵本賞を受賞。絵本の他にも、読み物、詩集など作品多数。他の主な作品に、『ともだちや』など『おれたちともだち』シリーズ(偕成社)、『かあさんの心』(佼成出版社)、『とってもしいこと』(クレヨンハウス)、『ぼんぼん』(鈴木出版)などがある。



浜田 桂子 (はまだ けいこ)

1947年、埼玉県川口市生まれ。桑沢デザイン研究所卒業。田中一光デザイン室勤務の後、子どもの本の仕事を始める。絵本に『あやちゃんのうまえたひ』『あそぼうあそぼうおとうさ』『てとてとてとて』(以上、福音館書店)、『ぼくがあかちゃんだったとき』『さっちゃんとなっちゃん』(共に教育画劇)、『ぼくのかわいくないもうと』(ポプラ社)、『あめふりあつくん』(佼成出版社)、イラストエッセイに『アンデスまでとんでった』(講談社)、『おかあさんも満一歳』『アックンとあやちゃん』(共にアリス館)、日・中・韓平和絵本『へいわってどんなこと?』(童心社)など。



和歌山 静子 (わかやま しずこ)

1940年、京都に生まれ、幼少期は函館で過ごした。武蔵野美術大学卒業。力強く大胆な絵を寺村輝夫氏に見出され、20代後半から子どもの本の仕事を始める。絵本『あいうえおうさま』(絵本にっぽん賞受賞)『おおきなちいさいぞう』(講談社出版文化賞受賞)をはじめ、『王さまシリーズ』『オムくんトムくんシリーズ』など寺村氏との仕事が多い。『王さまなぜなぜ戦争』(理論社)もその一つ。ここ20年程は、『てん てん てん』『ひまわり』『どんどこどん』『おーい はーい』『おかあさん どーこ?』など自作の赤ちゃん絵本も多い。ほかに『ぼくのはなし』(童心社)、『ぼく とりなんだ』(日本野鳥の会)、日・中・韓平和絵本『くつがいく』(童心社)など。



スカイツリーだけじゃない! TOKYOはこんなところ!

その②散策するにはうってつけ! 吉祥寺

全国の皆さん、こんにちは! 会場担当をしております神田です。今回は「住みたい街」の上位に選ばれている吉祥寺をご紹介します。吉祥寺駅は、街の再開発で大型店が増えてきましたが、昔から地元の人が親しんできたお店も数多く残っています。例えば、駅北口にある精肉・惣菜専門店の「さとう」で売られている丸形のメンチカツ(ここが元祖らしい)は、ジューシーな肉汁がおいしい一品で毎日行列ができます。それから元闇市の名残である「ハーモニカ横丁」は、入り組んだ小路に鮮魚店や食堂、雑貨などの店が所狭しに並んでいるノスタルジックな空間です。居酒屋も多し。

また駅から5分歩けば、都会とは思えない自然豊かな井の頭恩賜公園もあり、その中にある井の頭自然文化園では「ゾウのはな子」(日本最高齢の68歳)に会うこともできます。他にも大通りから一本外れた通りや路地を歩いてみると、おしゃれなセレクトショップやカフェ、ギャラリーも多くあり、1日いても飽きません。私も休みの日に散策して楽しんでいます♪散策が好きな方には吉祥寺がオススメです!



連載

東京集会で
会いましょう!

みなさんこんにちは。集会副実行委員長の田中浩司です。今回の会場である首都大学東京は、私の母校(母大学?というのか)であり、現在の勤務地です。でも、出身は兵庫県尼崎市。ダウンタウンの生れた町。大阪と同じ市外局番「06」を誇りに思う町。今では「〇〇じゃん」などと東京人のフリをしていますが、心はしっかりと西を向いています。そう、西といえば私の初めての就職先は、広島県福山市。広島保問研の皆さん、福山サークルの皆さん! ご無沙汰しています。私の教え子も保問研で活動していて、私の保問研スタートは福山です。皆来てくれるよね。ね。ということで、兵庫県と広島県の両方を向いた、調子の良い呼びかけになってしまいましたが、東京集会、本気で準備しています。もう一度、手と手をぎゅっと。皆さんと繋ぎ合えるのを楽しみにしています。ではみなさん! 東京で会いましょう。





伝えあい保育の
歴史と実践者から、
今大切にしたい事は

11月15日(日)クラブ保育園にて東京集会プレ学習会として、『伝えあい保育とは…』を行いました。講師は、今回基調提案を作成する田代康子さん(東京保問研・文学部会)。私たち東京保問研の会員も、今一度伝えあい保育のことを改めて学ぶ機会を作ろうと、今回の企画が立てられました。

資料として、貴重な昔の東京保問研の会報や、保問研創設者である畑谷光代著『伝えあい保育の誕生』(博文社、1968)から抜粋されたいくつかの実践をもとに話がありました。

プレ学習会 伝えあい保育とは… 講師 田代 康子

紹介された中のひとつの実践「集団妨害児」をみんなの問題に。(1968年畑谷光代「伝えあい保育の誕生」博文社1968)から。

朝の集まりの際、片付けを済ませ、椅子を持って廊下に座る時のこと。片付けもせずにふらふら～としていたクラス内のボス的存在の男の子(以下、ボス)。他児は、ボスよりも早く椅子を持って来ていたが、先頭の席を空けている。ボスは、平気な顔で先頭の席へ。他児も平気な顔・・・。

皆さんだったらどう感じますか？ボスがいても、問題が起きなければよし。他児も気にしていないのならよし。むしろ、優しい気持ちのあるクラスではないか！そう捉えることもできます。しかし！畑谷さんは、ボスの行動より、その行動をごく当たり前のこととして許している周りの子どもたちの意気地のなさに、人間としての怒りの感情を、制御することができなかったのです。

『伝えあい保育』で大切にしているのは、子ども一人一人が自分の意志を持ち、各々の思い

をぶつけ合うことで、集団の中で起こる問題を解決へ導いていく過程です。その過程で、他者の思いをどう受け止めて、柔軟に物事を捉え、よりよい考えを見出していけるかが集団を高めていく、また個々を高めていくのです。

そして、子どもも大人も「同じ床の上に立って」保育者が子どもたちの問題を自分のものとして分かち合えたときに、初めて伝えなければならぬことが明確になって言葉になります。

最後のグループ討議では、

「昔の実践では、大人が伝えたいことをストレートに子どもに伝えていた、集団の中で個を育てていくという考えが大切だと改めて感じた」という意見や、「昔も今も保育の中の問題として取り上げる点が同じことから、自分たちが『伝えあい保育』を受け継いできていると実感できた」などの意見があがっていました。

最後に田代さんから一言

資料が良かった！という感想がもらえてよかったわ～！かなり悩んで決めたセレクト集だったのよ。自分が保育している中で、異なる意見を言われた時に“ムカッ”としてもいいの！でも、何とか反論して、その過程で互いに意見をたたかわせると、オオッと気付かなかった点を発見できる。ぶつかって、なんとかわかるように説明しようとする、問題も見えてくる。

どんどん自分の意見や気持ちを発信して行く事が大切よね！



『伝えあい保育』は、乳児の言葉にならない気持ちを表情や行動で表しているため、保育者が気持ちを汲み取り、相手に伝えていくという“伝えあい”が基盤となり、幼児の話し合いへと繋がっていくのだなと感じ、乳児保育がいかに大切かということも学びました。
なんと！特別講座で『伝えあい保育』について学ぶことができます！ぜひご参加ください！



担当広報：梶田

◇保問研の歴史

1936年、社会の流れが戦争へと向いている中、当時の会長城戸幡太郎さんは、全国の保母に向けて、保育上の問題や困っていることを懇談的に研究し解決していこう！という内容の「保育問題研究会」趣意書を書かれました。これがきっかけで保問研が発足しました。

しかし、治安維持法などの影響を受け、やむなく活動がなくなったものの、戦後1953年に保問研の活動を再開されました。この頃は、民主主義を主張できるようになったことから、自分の意見をはっきり伝えていました。今は……？また、保問研の主となって保育・研究をしていた畑谷光代さん・高瀬慶子さんは、建物がなくても、あおぞらの下、保育をしていました。

◇伝えあい保育の歴史

はじめは、話し合い保育として生み出されましたが、言葉だけで話し合えば良いのではなく、子どもの言葉にならない訴えを、保育者がみずみずしい感受性を持ち、それを受け止め、子どもたちの言葉になるように整理することが大切であるため、『伝えあい保育』という名称に変わりました。